

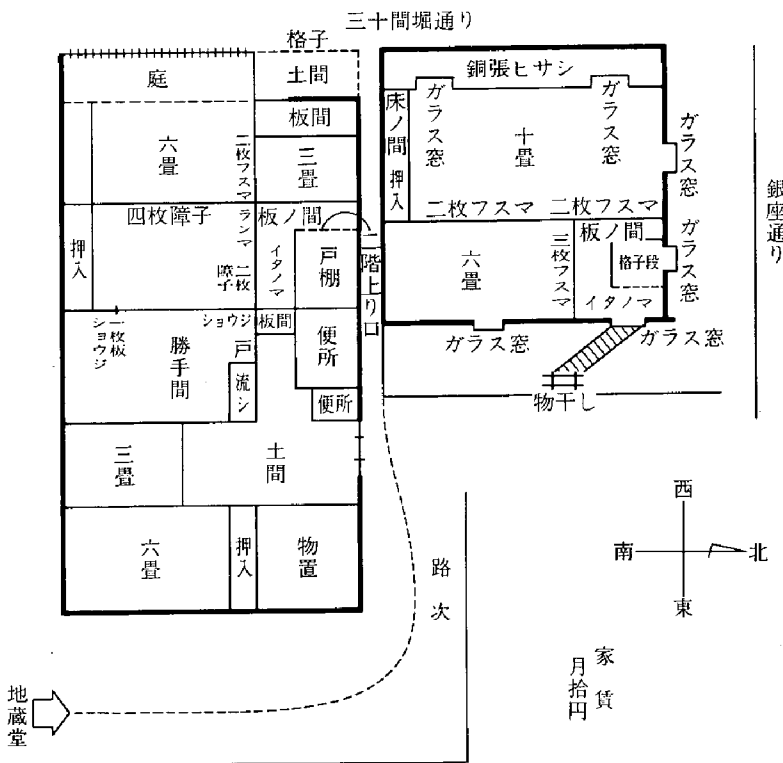
137 明治15年5月22日 菊池長閑宛

〔長閑注記〕 第六号 明十五五月廿二日

鉄道加入ニ付御見込至極よろし其後別段悪敷評判も聞ねとも不都合なるを押して加入すへき義理もへちまもなき事柄なれハ自分の勝手に任せ入るも入さるも可なり私に取てハ入らぬとて一向

差支なければとも全くかはらねハ盛岡にて尊前を何とか彼とか評するやも知ねハ私ハ当分見合セとして父君の名を以て五六株乃至十株も御加入あらハ可然欵隠居金を以テ加入被成事なれハ余計に出さすとも可宜と存候」お澄の用意品大概調たる趣然るに十円不足となり蚊帳を買ハ未た十五より廿円も入用なれハ式拾五円か三拾円不足に可成候間何分早く為御登被下度候即今ハ御立替申事実ハ不都合なり横田の金請取た事前便に申上たる筈

(別紙 図面)



引越ハ愈去十二日に相済候

京橋区加賀町拾八番地

父君

武夫

(長閑注記)

「五月廿九日達ス」